

新燃岳入山規制

火山と共生「仕方ない」

霧島市 観光関係者ら冷静

霧島連山・新燃岳の噴火警戒レベルが7年ぶりに3(入山規制)に引き上げられた30日、霧島市の観光関係者からは「火山と共生する地域。仕方がない」と冷静に受け止める声が上がった。

ル、イベントの中止・延期などの情報は入っていない。新畑幸一事務局長(55)は「登山以外にも楽しみ方はたくさんある。火山活動

千穂の県道小林えびの高原牧園線では、通行止めの看板を見てUターンする車が相次いだ。東京都の50代の夫婦は高千穂峰を登山する予定だった。「驚いたが自然相手では仕方がない。温泉に入ってゆっくりする」と口をそろえた。

が分離し、地下で動き出したことになる」と話す。警戒レベルの引き上げについて、鹿児島大学の井村隆介准教授(火山地質学)は「11年や18年の山の膨らみと同じか、それ以上にマグマはたまっている可能性はある。いつ噴火してもおかしくないことを再確認させた。すぐに避難行動をとれるようにしないといけない」と注意を呼びかけ、「最初は小さな噴火かもしれないが、そこからどう推移するか分からない。マグマの通り道ができてしまっている」と、大きな噴火への移行期間が早い可能性がある」と話した。

単発的噴火を想定

気象庁

桜の見頃を迎えた同市霧島田口の霧島神話の里公園では同日、恒例の「桜の春を十分に楽しんでほしい」と落ち着いた様子で話した。

噴火警戒レベルを3に引き上げた霧島連山・新燃岳について、気象庁は30日、

単発的な爆発を繰り返す、現在の桜島のような規模を想定していると説明した。専門家は「大きな噴火につながる可能性もある。霧島山は活火山だと再認識し、規制範囲を守ってほしい」と注意を促す。

噴火の可能性は、火山ガス(二酸化硫黄)の検出が目安になるが、30日の現地調査では放出量が算定できなかった。京都大学の石原和弘名誉教授(火山物理学)は「二酸化硫黄が1日あたり数百トント検出されると噴火の可能性が高まる。新しいマグマから火山ガス



通行止めとなった県道小林えびの高原牧園線＝30日、霧島市牧園町高千穂

【問1】 霧島連山・新燃岳の噴火警戒レベルが3になったのは、何年ぶりでしょう。

7年ぶり

【問2】 噴火警戒レベルを上げたのは、どこの省庁でしょう。

気象庁

【問3】 問2は、どんな規模を想定していると説明したのでしょうか。

単発的な爆発を繰り返す現在の桜島のような規模

【問4】 2011 年の噴火は、何を放出したのでしょうか。

多量の火山灰や軽石

【調べてみよう】 身近な山や活火山について、調べよう。

むずかしい漢字とことば

霧島(きり・しま)

新燃岳(しん・もえ・だけ)

噴火(ふん・か)

警戒(けい・かい)

地域(ち・い)

見頃(み・ごろ)

迎(むか)えた

恒例(こう・れい)

満喫(まん・きつ)

危険(き・けん)

差(さ)し迫(せま)って

状況(じょう・きょう)

温泉(おん・せん)

宿泊施設(しゅく・はく・し・せつ)

延期(えん・き)

把握(は・あく)

訪(おとず)れた

落胆(らく・たん)

高千穂(たか・ち・ほ)

看板(かん・ばん)

峰(みね)

驚(おどろ)いた

気象庁(き・しょう・ちょう)

爆発(ばく・はつ)

繰(くり)返(かえ)す

規模(き・ぼ)

専門家(せん・もん・か)

再認識(さい・にん・しき)

範囲(はん・い)

促(うなが)す

蓄積(ちく・せき)＝

火山灰(か・ざん・ばい)

山腹(さん・ぷく)＝

呼(よ)びかけ

硫黄(い・おう)

分離(ぶん・り)

准教授(じゅん・きょう・じゅ)＝

膨(ふく)らみ

確認(かく・にん)

避難(ひ・なん)

推移(すい・い)